

県内避難者と組合員、支え合う関係を築く

コープあいち「地域をつなぐ交流会」開催



避難者一人ひとりが思いを語る。

2月24日、愛知県にある「ワークライフプラザれある」にて、「地域をつなぐ交流会」が開催され、愛知県へ避難している方と生協組合員の56人が出席しました（主催：コープあいち、協力：愛知県被災者支援センター）。

今回の交流会は、愛知県で暮らす人同士が知り合い、今後お互いに支え合える関係を築いていくこと、そして、被災された方々の思いや経験をもとに、地域の防災や安心して暮らせる地域づくりへとつなげていくことが大きな目的です。

現在、愛知県では500世帯を超える方が避難生活を余儀なくされています。今回の交流会では、5人の避難者の方々が、現状について話しました。「職がなかなか見つからない状況」、「家族がばらばらになっている現状」、「被災者と表立って言えなかった過去」、そして被災者を支援するための団体を立ち上げ、前

に進む努力をしている話など、それぞれの思いが語られます。参加者のなかには、被災者の話を聞くことで自ら加害者意識を持ってしまう人や、どう支えていけるのか悩む人もおり、課題は複雑ですが、一人ひとりが現状と向き合い、自分に何ができるかを考えるきっかけになりました。



近い距離で思いをぶつけ合う場となった。

赤武酒造(株)からのメッセージ Vol.4

代表 古館秀峰さんから(3月10日)



※関連記事：本誌17号、21号、24号にて古館代表のメッセージを紹介しています。

震災から2年を迎えます。あつという間でもあり、また長い時間でもありました。長きにわたり、継続支援してくださっております皆様方本当にありがとうございます。人は、関わり合い助けられながら生きているのだと実感する日々です。

昨年12月、隣接する盛岡市の土地に新工場建設のため地鎮祭が行われました。受け入れてくださった盛岡市の皆様や、様々な問題に共に向き合い協力してくださった皆様への感謝の想いで胸が熱くなりました。いつか必ず大槌町へ。改めて胸に誓い、新しい一步を踏み出します。復興へ向かい始めてから、不安や焦りでいっぱいでした。上手くいれないことばかりです。涙することもありました……。でも笑う事も出来ました。こんな私たちが応援し大切な事を教えてくれる人たちに感謝いたします。

これからもいろいろなことがあると思いますが、この感謝の気持ちを忘れず皆で頑張り続けていきます。



18 生協へ厚生労働省より感謝状

2013年3月11日、厚生労働省は、東日本大震災における被災者支援活動を行なった団体などに対して、厚生労働大臣から感謝状を贈呈することを決定しました。対象は、厚生労働省所管事業に関する貢献をした団体で、生協からは、日本生協連を含め全国18の生協が受賞しました。

【受賞生協】(3月11日時点での生協名で表記しています)

福島県生協連、さいたまコープ、医療生協さいたま、富山県生協連、福井県民生協、コープしが、コープこうべ、尼崎医療生協、ろっこう医療生協、福島大学生協、コープ東北サンネット事業連合、コープネット事業連合、パルシステム茨城、パルシステム連合会、医療福祉生協連、グリーンコープ連合、全労済、日本生協連